

## 平成28年度第1回川崎市産業振興協議会会議録

### 1 開催日時

平成28年9月6日（火）午後3時～5時

### 2 開催場所

川崎市産業振興会館11階第6会議室

### 3 出席者

#### (1) 委員（14名）

杉浦会長（慶應義塾大学名誉教授）、鹿住会長代行（専修大学商学部教授）、沈委員（日本女子大学人間社会学部教授）、磯谷委員（川崎地域連合事務局長）、伊藤委員（川崎工業振興倶楽部会長）、岩井委員（川崎商工会議所理事・事務局長）、岡田委員（横浜銀行常務執行役員川崎支店長）、大西委員（神奈川県情報サービス産業協会理事）、堤委員（川崎信用金庫常務理事）、出口委員（川崎市商店街連合会青年部長）、沼委員（川崎市工業団体連合会理事）、星野委員（神奈川県中小企業家同友会理事・川崎支部相談役）、本多委員（川崎市観光協会観光推進部長）、山根委員（川崎建設業協会副会長）

#### (2) 事務局

経済労働局長、産業政策部長、国際経済推進室長、産業振興部長、都市農業振興センター所長、次世代産業推進室長、労働雇用部長、理事・公営事業部長、理事・北部市場長、企画課長、企画課職員

### 4 議題（公開）

- (1) 会長の選出等について
- (2) 川崎市産業振興協議会の設置目的等について
- (3) 市内産業の現状と経済労働局の事業の概要について
- (4) 川崎市中小企業活性化条例に基づく施策の検証体制について

### 5 傍聴者

なし

### 6 会議の内容

産業政策部長

（平成28年度第1回川崎市産業振興協議会開会を宣言）

（会議公開や傍聴人の有無（今回は無し）を確認）

経済労働局長

多忙な中での会議出席に感謝申し上げます。皆様におかれては9月1日付けで委員委嘱をさせていただいた。今後、この体制で協議会を進めていくので協力をお願いしたい。

今年度から新しい総合計画のもと、政策領域別の計画として産業振興プランを策定し、施策を進めていく。また、市内中小企業をしっかりと応援し、経済を活性化させていくために条例を施行した。ただ条例を制定しただけでなく、施策が適切に進んでいるかを皆様に検証していただく仕組みも立ち上げた。

組織作りで言えば、4月にこれまでの農業振興センターから「都市」農業振興センターに変わった。都市の中の農業振興により注力していきたい。また、観光にスポットを当て、より重点的に取り組んでいくため、これまで商業と観光を同じ組織で担当していたところ、新たに観光プロモーション推進課を立ち上げた。工業振興課では「高度化支援係」が「ものづくり・ICT支援係」に変わり、ICT産業との関連の中での具体的な産業振興を進めていくことも考えている。

行政も世の中の動きに柔軟に対応していきたい。さまざまな立場からお集まりいただいている皆様の知見をいただきながら、より良い施策を進めていきたい。

産業政策部長

(委員委嘱について確認。委員を紹介。会議成立を確認。事務局を紹介)

企画課長

(資料を確認)

産業政策部長

(「議題1 会長の選出等」について説明)

委員の皆様から立候補、もしくは推薦等があればお願いしたい。

岩井委員

これまで慶應義塾大学名誉教授の杉浦先生に会長をお務めいただいていたと、前任者から聞いている。私も含め、新任委員も多いので、ぜひ引き続き杉浦先生に会長をお勤めいただくのが適任かと考え、推薦させていただく。

産業政策部長

岩井委員から杉浦委員を会長として推薦いただいた。ご意見があれば伺いたい。

協議会の議事については、附属機関設置条例第7条第3項の規定に基づき、出席委員の過半数を持って決することとされている。杉浦委員の会長就任について、よろしければ拍手により承認をお願いしたい。

(満場一致)

委員の皆様の手拍子多数により、杉浦委員に本協議会会長に御就任いただくことが承認された。一言ご挨拶をお願いしたい。

杉浦会長

ご承認いただき感謝申し上げます。会長として議事運営等を進めてまいります。

慶応大学経済学部にて都市経済や産業集積、国土政策を中心に40年にわたり研究してきた。数年前に定年退職したところである。

20世紀の産業集積を長い間研究してきたが、現在は新しいものへの変革期だと捉えている。政府では国土強靱化のため、もう一度公共事業に取り組もうとしている。高度経済成長期ではそれで良かっただろうが、21世紀の国土政策においては情報化をどう捉えていくかが重要ではないかと考えている。IoTなど情報ネットワークが変わって

いく中で、インフラを作ることは最終目的ではなく、そのインフラを活用することでいかに経済が活性化していくか、いかに暮らしが豊かになっていくかが重要である。新しい考え方やものが生まれる、つまりイノベーションを引き起こすきっかけになるのが、そのようなインフラだろうと思う。インフォメーションとイノベーションが伴って初めて21世紀にふさわしい国土政策や経済政策の基本スタンスが生まれてくるのではないだろうか。この川崎という場で、情報とイノベーションの融合をどのように実現していくか、皆さんのお知恵をお借りしながら考えていきたい。

また、今年4月に中小企業活性化条例が施行されたが、我々の協議会にはこの条例という仏に魂を入れる役割が求められている。条例に息吹を吹き込み、新たな国土政策・経済政策を先導する役割が我々の協議会にはあると考えている。協力をお願いしたい。

産業政策部長

附属機関設置条例第6条に基づき、会長に事故があるとき、または会長が欠けたときに会長の職務を代理いただく委員について、会長にご指名いただきたい。

杉浦会長

会長代行は鹿住委員をお願いしたい。

産業政策部長

杉浦会長から指名があった。ぜひご承諾いただき、ご挨拶をいただきたい。

鹿住会長代行

ご指名に感謝申し上げます。専修大学商学部におり、専門は中小企業・ベンチャー企業経営とアントレプレナーシップである。

決して広くないこの川崎の中で、中小企業とベンチャー企業という、非常に重要な経済主体が共存共栄しているのはすばらしい。このような、他に例がない地域で産業振興政策の立案・執行管理等に携われるのはうれしく、自分の研究にとっても非常に役立つ会議だと認識している。ご協力をお願いしたい。

産業政策部長

(議事進行を杉浦会長に依頼)

杉浦会長

「議題2 川崎市産業振興協議会の設置目的等」について、事務局から説明をお願いしたい。

企画課長

(資料に基づき説明)

杉浦会長

ここまでの説明に関して、委員の皆様から御意見、御質問があればお願いしたい。

(意見・質問等、特になし)

それでは、意見等があれば「議題3」説明後の質疑応答でも受け付けることとして、「議題3 市内産業の現状と経済労働局の事業の概要」について、事務局から説明をお願いしたい。

産業政策部長

(資料に基づき説明)

杉浦会長

ここまでの説明に関して、委員の皆様から御意見、御質問があればお願いしたい。

堤委員

人口動態について。人口増加は全国的にも珍しく、同業からうらやましいと言われることもある。人口増加は地域活性化に結びつき、喜ばしいことである。多摩川を挟んだだけで家賃が安くなるため、川崎の人口は増えているとはよく言われるが、そのような意味では、さいたま・千葉も東京隣接という点で川崎と状況が同じなのに、川崎ではさいたまの1.5倍、千葉の2倍の増加率で人口が増加している。なぜ川崎は人口が著しく増加しているのか。もし分析しているようであれば参考までに伺いたい。

産業政策部長

殿町・キングスカイフロントは2005年に撤退したいすゞ自動車の工場跡地に整備された。ラゾーナ川崎プラザが東芝工場跡地に商業施設としてオープンしたのが翌2006年で、翌2007年に大規模マンションであるラゾーナ川崎レジデンスへの入居が始まったと記憶している。市内の大型生産拠点から商業・住居施設へのシフトが進み、人口増加につながったというのが現状だろうと思われる。

堤委員

千葉・さいたま以上にメディア等によく取り上げられている印象。ラゾーナもそうだし、小杉についても実際どうかは別として、若い人から「おしゃれなまち」として認識されるようになり、若い労働人口も増えている。行政のまちづくりの方向性が間違っていないということではないかと個人的には思っている。一市民として、今後もこの方向で進めていってほしい。

産業政策部長

政令指定都市中、川崎は最もせまいのに、2030年には人口のピークを迎え、150万人となる見込みである。人口増に伴う課題もあるかと思う。

沈委員

3点お聞きしたい。

- ①外国人の増加についても興味深く、伺いたい。
- ②生田緑地の観光資源は、我々からすると非常に貴重である。外国人研究者が大学に来ると、必ず民家園に案内するが、皆さんとても感動される。このように都市近辺で自然や生活風景が大規模に残されている箇所は、他のアジア地域では見られない。可能性はかなりあるのではないかと。ただ、観光拠点が点在しており、それぞれがつながっていないので、新百合ヶ丘の映画大学・音楽大学等といった貴重な文化・映像資源ともリンクして開発できればよいのではないかと考えた。
- ③かわさき基準について。中国や韓国で開催される介護関連のシンポジウム・展示会にて講演を行うことがあり、アジアにおける介護機器市場の急成長を感じている。かわさき基準もアジア地域で共有できる基準にしていけばよいのではないかと。

国際経済推進室長

外国人の人口増加率は今、手元で正確には把握していないが、人口については現在、3万人超だと把握している。2011年の東日本大震災で一時的に流出したが、その後、

数年かけて3万人超までに回復した。歴史的な経緯から朝鮮・韓国籍の方が4割ほどを占めてきたが、その後、中国人が1位になった。最近、ベトナム人や、IT産業の振興に伴いインド人が増えてきている。

#### 産業振興部長

生田緑地の観光について。今春、県知事が民家園を訪問され、川崎にこのようなすばらしい施設があることを初めて認識したとおっしゃった。PR不足や回遊性の悪さは我々も課題として認識している。今年3月に策定した観光プランでも、生田緑地の活用は大きな柱となった。今後、羽田空港から橋が架かったら、15分で川崎に来ていただけるようになるので、時間を取っていただける場合は生田緑地まで足を伸ばしていただき、そこまで時間が取れないようであれば大師を観光していただくなど、選択肢を示すことで、川崎の貴重な観光資源に触れていただけるよう、活用していきたいと考えている。

#### 沈委員

商業施設があまり無く、食事をするところもなかなか見つけられない。記念品販売店も無かった。

#### 産業振興部長

確かにそのような点がある。現在、生田緑地でワークショップを開催しているところで、ご指摘の点も話をしていきたい。

#### 経済労働局長

外国人のお客様に川崎に来ていただくにしても、先方に情報が届いていない、必要な人に必要な情報が行き届いていない点が課題だと考えている。その課題をどう克服していくか、検討していかなければならない。例えばSNSなどの情報通信ツールを使って、海外に向けた発信を行うことも必要ではないかと考えている。来日前に川崎の情報に触れていただけるようにしていきたい。

#### 次世代産業推進室長

かわさき基準のアジア市場への展開については、取組を始めた当初から構想に組み込まれていた。介護機器は生活様式や体格にずいぶん影響され、欧米の福祉機器は日本人の体格になかなか合わないということがあった。そこで、課題解決先進国である日本の中でも、川崎が福祉機器の開発・活用を積極的に進めていこうということで、かわさき基準がスタートした。現在、132製品を認定・販売している。毎年20～30件を新規認定しているが、そのうち市内産品はわずか4～5件で、他は全国各地から申請をいただいている。現在はジャパンスタードへの育成に注力しているが、併せて、今後はアジア市場にも展開していきたいと考えている。

かわさき基準を多くの方に知って、実際に使っていただくことが重要だと考え、特に今年度からはマスコミへの露出を増す取組を進めている。認定商品を宣伝させていただくので、今日ご出席の皆様におかれても注目していただき、周りの方に広めていただけたらありがたい。

#### 沈委員

昨年、幕張メッセで開催された福祉機器展を訪れたが、川崎の企業の出展は少なかった。

た。中国からのお客様が多くいらしていたので、かわさき基準の宣伝をしたが、仕組みが分かりづらく、説明してもなかなか浸透できなかった。うまくPRするなど、工夫できる余地があるのではないかと思う。

#### 鹿住会長代行

20年前からビジネスインキュベータの研究もしており、KBICやKSPはこれまで何度も訪問してきた。日本のビジネスインキュベータの草分けであるKSPだけでなく、KBICも多くのベンチャーを生み出すなど、他地域に比べ産業集積が図られてきた。近年はウオッチできていなかったが、その後の卒業企業の動向はどうか。市内に立地しているのかどうか。他地域では、せっかく育った企業が他所に移ってしまうなど、めばしい成果が見られなかったが、川崎ではどうかをお聞きしたい。

また、近年、女性の起業支援についてどのような対応を取られているかも伺いたい。横浜市では「F-SUS (Female Start Up Support) よこはま」など、女性に特化した窓口やプログラムが用意されている。

#### 次世代産業推進室長

KBICについて、最近ご覧になっていないとのお話だったため、近年の動きをご紹介したい。平成24年には新館としてNANOBIICを開設した。こちらはナノマイクロに特化した施設で、大型クリーンルームが備えられている。東大・東工大・早稲田・慶応による「4大学ナノ・マイクロファブリケーションコンソーシアム」は、連携して研究を行い、高度機器を共同利用しているほか、その機器を企業に開放するなどの取組を進めることで、川崎だけでなく全国から企業が集まっており、KBICだけの時代から一歩進んだ、日本を引っ張っていくような施設になった。

卒業企業のその後については、先ほど面積と人口の説明もあったが、そこからご想像いただけるとおり、川崎市内には土地が無いため、直接的効果で言えば、卒業後も市内で操業し続ける企業はあまり多くはなく、1割から2割あるかどうかである。ただ、先ほどの説明にもあったとおり、8年前は200強だった研究機関が約400施設にまで集積するきっかけとなったのは、現在の殿町での展開より先行していた新川崎での取組であり、広い意味ではかなりの効果を生んでいるものと考えている。

起業支援について、女性にも光を当てており、例えば女性専用の起業家塾を男女共同参画センターとコラボしながら開催するなどしている。支援をさらに増やしていく必要があると考えている。

#### 鹿住会長代行

経済産業省女性支援ネットワークにも関わっており、他地域の状況も把握しているので、お役に立てればと思う。

#### 次世代産業推進室長

ぜひご相談させていただきたい。

#### 経済労働局長

卒業企業にはその後も市内で定着・操業し続けてほしいのが本音だが、中には他地域に移られる企業もあるのが現実である。ただ、移転後も情報発信を続けることで、何かの折には川崎に来ていただけるようにしている。もともと市内企業も市内で事業を完結

している訳ではなく、大田区や横浜などの近隣地区とのネットワークを活用しながら操業を続けている。他地域移転後も卒業企業が市内企業と連携した新たな取組を行えるよう、工夫していきたい。

#### 出口委員

議題2にて「成長と成熟の調和による持続可能な最幸のまち」をめざすと説明を受けたが、成長分野にスポットライトが当たることが多く、成熟部分への視点が足りないように感じた。商店街ツアーが行われるなど、我々にとっては当たり前の、昔からまちにあるようなものも観光資源になる。新しいものに目が行きがちだが、古いものを壊して新しいものを作るとなると時間が掛かる。工場夜景には取り組まれているが、このように昔からあるものに注目することも重要なのではないか。大田区では町工場にフィーチャーした取組がなされていると聞いている。川崎ではそのような取組がないような気がするが、例えば高津にもオンリーワンのヘラ絞り加工技術を持つ工場がある。今あるものを活かすことも検討してはどうか。木でも古い木のほうが観光資源になるように、古いものにも注目してほしい。今年4月に地域見守りセンターが設置されたが、これも昔の町内会の仕組みを取り入れて地域の見守りをしている。古くから続いているものは、それなりのノウハウがあるはずだ。

#### 産業振興部長

商店街については、物の売買だけでなく、地域コミュニティの核として大切だと考えており、既存商店街のイベントに対する助成や、広くエリアで商業振興を考えるエリアプロデュース事業の展開などに取り組むなど、地に足がついた支援を行っている。また、商店街にある街路灯のLED化に取り組む「エコ化プロジェクト」も進めている。

#### 産業政策部長

経済労働局が取り組んでいる産業振興分野においては、まちづくりの基本目標のうち「力強い産業都市づくり」に偏り、逆に「成熟のまちづくり」は健康福祉局やこども未来局の事業に偏っていると思う。ただ、経済労働局でいかに成熟分野というか、今あるものにスポットを当てていくかという点に着目すると、お話のあった工場夜景のほか、地域の見守り力でカバーしていく重要性を捉え、消費者行政センターで地域見守り・未然防止事業にも取り組んでいる。

内陸部では、企業が周辺住民を対象に自社を紹介するような取組を進めている。知られざる宝が川崎にはたくさんあり、そのことが誇りにつながっていくような取組を行っていくことが重要だと考えている。

#### 出口委員

消費者の目線はおもしろく、我々では気付かない点に着目するところがある。当社は鹿島田近くにあるのだが、今日も操車場で撮影している人が十数人いた。臨海部などでは、撮影したくても立入禁止区域のためできないケースが多く、操車場を撮影できるようなツアーは無いだろうかといった話をお客さんから聞いた。商店街ツアーについても、実施前はそのようなものがツアーになるのかと思ったが、実際に始めてみると多くの方に喜んでいただいている。既存のものを活かす取組ができればよいのではないか。

#### 杉浦会長

中小企業振興は川崎にとって重く大きな課題である。これから「議題4 川崎市中小企業活性化条例に基づく施策の検証体制」の説明を受けるが、市の事業は実際に効果があるのか、あるいは現場の声を聞きながら、施策をどのように改善していけばよいのかを検証していく必要がある。今日、皆さんからいただいたご意見も、今後の検証過程の中で見ていくことができるのではないかと思う。

では、次の議題について事務局から説明をお願いしたい。

企画課長

(資料に基づき説明)

杉浦会長

事務局から説明があったが、我々の協議会と連動しながら、施策をチェックしていくため、フットワークの良い部会を設置し、中小企業活性化施策の状況や課題を議論いただき、本協議会にフィードバックしていただくということだ。

鹿住会長代行

検証は毎年行うということか。単年度で行い、その結果を翌年度の予算に反映していくということか。スケジュールについて伺いたい。

企画課長

全体としてはサイクルで回していきたい。一年掛けて検証を行い、その結果を翌年度の予算要求等に反映していく予定で、施策をより良くしていくために皆様にチェックしていただきたい。

鹿住会長代行

産業振興プランには目標値が具体的に示されているが、このプランに対象施策が含まれているのか。中小企業活性化条例に基づく施策については、別途目標値を定め、検証していくということか。

企画課長

中小企業活性化条例と産業振興プランの連動性についてご説明させていただく。プランの3ページに「条例に基づく中小企業活性化施策の体系一覧」を掲載している。左列には条例内容を記載し、右列には条文に基づく中小企業活性化施策が、プランのどのページに掲載されているかを示している。このように、条例とプランは合致した作りとした。プランに掲載されている中小企業活性化施策をチェックすることは、条例をチェックすることにリンクしており、事業自体をチェックしていただければ、プランも条例もチェックできる仕組みになっている。

鹿住会長代行

プランに掲載されている目標値は平成29年度までとなっており、29年度までにこのような目標にしていきたいという考え方だと思う。各年の目標値があって、それを中小企業活性化条例に基づきチェックしていくということか。

企画課長

事業単位では細分化されている。重点事業について資料に落とし込み、部会で一つ一つチェックしていただいたものを、協議会にフィードバックすることを想定している。

鹿住会長代行

実は以前、神奈川県計画評価策定部会に約10年間携わったことがある。アウトプット指標だけでなくアウトカム指標も設定するなどかなり厳密で、喧々諤々の議論を通じて指標そのものが適正かどうかも検討するなど、負荷の高い部会だった。部会委員は大変だろうと思われる。

企画課長

部会委員の皆様にはご負担を掛けるだろうと思われる。全ての事業をチェックするとなると負荷が高いと思われるので、まずは重点事業をチェックしていき、その後、必要に応じて広げていければよいのではないかと考えている。部会委員の皆様と意見交換しながら進めさせていただきたい。

産業政策部長

目標・指標の設定について、目標の掲げ方がそれで本当に良いのかといった検証もお願いできればありがたい。できれば数値で表したいということで、目標・指標を設定しているケースもある。他の目標・指標を持ってきた方が良いのではないかといったご意見もぜひいただきたい。

杉浦会長

部会委員の皆様にはお手数をかける場面もあるだろうが、ぜひご協力をお願いしたい。いま事務局から説明のあった部会設置案についてお諮りする。異議・意見のある方がいらしたら挙手願いたい。

(意見・異議等、特になし)

それでは、早速部会をスタートし、協議会にフィードバックする作業に取り掛かりたい。中小企業活性化専門部会の設置を決定する。部会にも参画される委員については、役割が増えることとなるが、協力をお願い申し上げる。

議題は以上となる。他に事務局からあればお願いしたい。

産業政策部長

特になし。

杉浦会長

本日の協議会はこれで閉会とする。事務局から連絡があればお願いしたい。

産業政策部長

長時間の議論に感謝申し上げます。部会開催をはさみ、次回協議会は来年3月を予定している。部会報告を含めて開催させていただきたいと考えている。また案内を差し上げるので、その際にご出席をお願いしたい。

以 上